

モニモモ皮、シロモモ等の附隨した形におけるモモの名の残りがあるのを資料としたが、端的にモモの名が残っていないことは画竜点睛を欠くの感を否めなかつた。近日、琉球フロラを手掛けて令名のある園原咲也氏の好意で同氏が多和田真淳、天野鉢夫各氏の共著でWalker 博士が改訂編輯された沖縄植物誌 (1952) をみる機会をえたが、これにヤマモモに対してモモの名が沖縄で呼ばれている記事を見出して思わず膝を打つた。即ちmumu と呼ぶというのである。これは明瞭にモモの僅かな変形で、幾多の日本の伝承や古語が沖縄に隔離保存されているものと同格と思われる。ヤマモモは曾つて簡明にモモと呼ばれたことが更に確証された。

### ○花粉粒の微細特徴の顯微鏡寫真撮影にスンプ薄板の新利用法\* (石戸谷 勉)

Tsutomu ISHIDOYA : On the photographic Sump-view of pollen grains, with Pl. V

花粉粒の顯微鏡写真撮影に当たりその特徴である褶裂の形、数、発芽孔の配列等はグリセリン封、バルサム封等により容易に写しとることは出来るが、外膜表面に於ける微細な彫刻模様や、外膜の断面にある柵状層の特徴を写しとることは困難である。

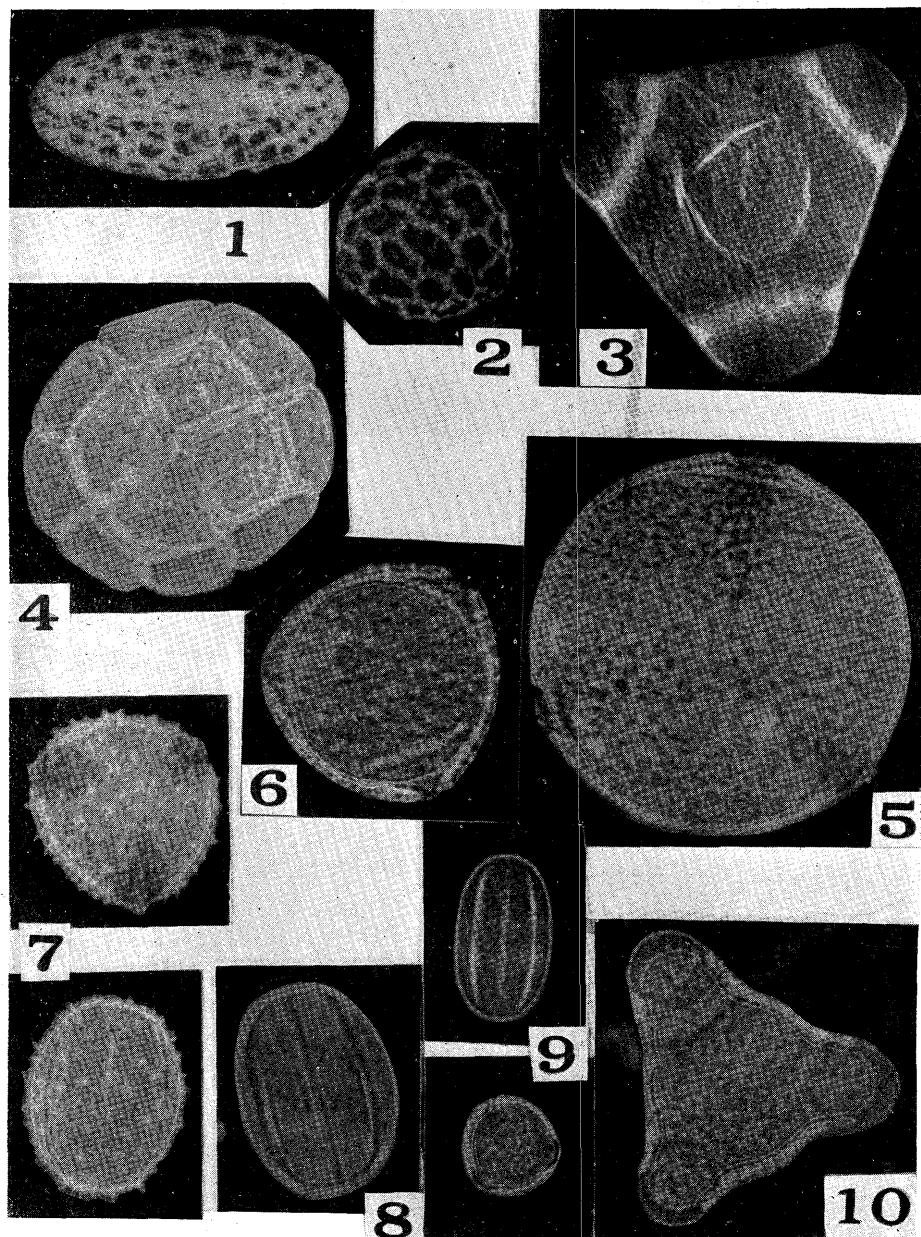
著者は京城帝大時代に花粉病に關係ある花粉を取扱い、偶然の機会にスンプ薄板を利用することにより花粉粒の微細特徴をとらえることに成功したのでここにその方法を報告することにした。

従来のスンプ薄板の使用法は目的の標本の表面に薄板を押しつけ表面に於ける微細形態の陰像をとり、之を台紙に貼りつけ検鏡するのであるが花粉粒の如き細かい検体にはこの方法を應用することは出来難い。故に著者は台ガラスの表面に検体の花粉粒を置き之を覆ガラスを以て封する代りに第一液をぬりつけたスンプ薄板を以て之を封じそのまま検鏡した。花粉粒の側面像を見るにはキシロールで台ガラス上の花粉粒を二、三回洗い色素を去りそのまま薄板にて封じた。極面像を見るには更に 60% のアルコールにて花粉粒を洗い花粉粒が吸水膨脹して扁球体となり極面を現すのを待つて薄板を以つて封じた。この方法により生葉の毛茸、気孔等のある薄膜、組織の小切片、粉末等の微細特徴を観察することが出来又写真に明かに特徴を写しとることが出来た。次に示す顯微鏡写真は何れも約 500 倍で装置は日本科学社のプリズム投影機を用いた。

(日本大學工學部藥學科)

圖版説明 1. ヤマユリ *Lilium auratum* の花粉粒の表面に於ける網状紋、2. ツルアズキ *Phaseolus pendulus* の花粉粒表面の網状紋、3. マツヨイグサ *Oenothera odorata* の花粉粒の極面像、4. ネムノキ *Albizzia Julibrissin* の 16 個集合せる花粉塊、5. ボウabra *Cucurbita moschata* var. *melonaeformis* の花粉粒外膜の柵状層と発芽孔の蓋、6. スイカズラ *Lonicera japonica* の花粉粒赤道線部断面、7. オトコエシ *Patrinia villosa* の花粉粒の側面及極面像、8. ワツボグサ *Prunella vulgaris* の花粉粒の側面像、9. アカツメクサ *Trifolium pratense* の花粉粒の側面像と赤道部断面像、10. オツバネウツギ *Abelia spathulata* の花粉粒の極面像。

\* 本要旨は昭和 28 年 11 月 28 日、静岡に於ける日本生薬學會關東部會に於て報告したものである。



T. ISHIDOYA: Sump views of pollen grains.

石戸谷勉: 花粉粒のスンプ像